

B-35 蠟染めでの蠟材の防染効果

和洋女子大文部政 〇我妻美奈子 伊藤秀三郎

目的 現在蠟染めは生活に密着し、手工芸品として様々な形でとり入れられてゐる。私達は既に「蠟染めでの温度による防染力」「布及び筆の吟味」並びに「蠟染めでのろうの布付着量」に就いて報告した。

既報では、蠟書き後の染法を浸染で行ったが、今回は刷毛染めの方法を使用した。また蠟材の効果は、染色後の白色度合の糸で検討した。

方法 使用布は木綿、絹及びレーヨン、蠟材は白蠟とパラフィン蠟、染料はナフトール染料、筆は蠟染用丸筆、布張りに用いる枠は油絵用キヤンバス枠SFで、蠟の溶解にはサーモスタットを利用した蠟溶器を使用した。

技法に示れるが、布をSFの枠に画鉄で平にとめ、一定量の蠟と筆に含ませ、素早くその上に蠟書きする。蠟書き後ナフトール染料で刷毛引きを行い、染色後ソーベングしその後、光電比色計によって白色度合を判定した。

尚蠟の温度は70～150°Cである。

結果 蠟染めの防染は、刷毛染めでも浸染と同様80°C附近が、その効果が最大であった。